

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2003.9.18 No.6

北海道ボランティア・レンジャー協議会

イヌタデ考

小さい頃、ままごとの食卓に赤い花穂をしごき、ごはんに見立てて遊んだ野草、それはイヌタデやオオイヌタデでした。それゆえ、別称アカノマンマ、オコワグサなどと呼びます。おさない頃の懐かしいおもいでです。このイヌタデはタデ科の1年草でありふれた野草なので、観察会でも無視されてしまいますが、有史以前、農耕文化の伝来に伴い、無意図的にもたらされた植物といわれています。このような植物を「史前帰化植物」といいます。

イヌタデやオオイヌタデなどイヌタデ属は日本には30種余が分布しているといわれていますが、属名 *Persicaria* はこの植物の葉がモモの葉に似ているという *Persica*(桃)からきています。タデ(蓼)の名は「爛れる」からきているといいます。

刺身のツマや蓼酢として利用するヤナギタデはマタデとも呼ばれ辛味があり栽培もしています。イヌタデはまったく辛味がなく、役に立たないという意味でイヌを冠してイヌタデの和名がついたのでしょう。イヌタデ属にはイヌタデ、オオイヌタデ、ヤナギタデのほかに、ハナタデ、シロバナサクラタデ、オオケタデ、ミゾソバ、タニソバ、イシミカワ、アキノウナギツカミなどがあります。



アケボノソウの嘆き

例年この時期、公園内にアケボノソウがみごとに咲いていました。昨年、これらの何ヶ所かの周りが踏まれていました。きっとアケボノソウの花を見たりカメラにおさめるために多くの人たちが踏んだのでしょう。案の定、今年その場所には一株も見当たりません。アケボノソウは1~2年草で、種子も1mmほどの細かいものですから、人為的な理由で消えてしまったのでしょう。

野草は茎を折ったり、根を掘り起こしたりしなくとも、無神経な観察をすると消えてしまいます。野草ばかりでなく、野鳥についても言えることです。貴重な珍しい野草や野鳥に出くわすとこれらに興味・关心つのは当たり前のことでしょう。けれども、「あの珍しい野草があった」・「貴重な野鳥を見た」と、話が広まると、その広まりの行き着くところが、野草が消えたり野鳥が寄り付かなくなったりすることが多いのです。

公園内を何か珍しいものはないかと、探し物でもするかのような自然の楽しみかたより、もっとおおらかな気持ちで自然の恵みを受け取ったり、自然の仕組みをマクロにとらえる目をもって学ぶ、そんな観察はできないものでしょうか。

昨年アケボノソウが咲いていた場所の現状を見ながら、見られなくなったことより、見られなくした私たちの行為に痛恨の気持ちを持ったのです。

タネの散布

生物が生き長らえているのは、子孫を残し続けてきたことによります。膨大な時間を費やして今の自然があります。特に自分で移動できない植物は長大な時間をかけ子孫を残し続けています。

「まかぬ種は生えぬ」とのことわざがります。雑草のタネをわざわざ撒く人はいないようですが、どこからか運ばれてきたにちがいりません。植物は、タネの散布にさまざまな知恵を働かせてきました。動けないという不利な面をよく承知し、親から離れて芽をだそうと、力学や動物の性質まで利用する知恵者です。

風の力を借り運ぶもの、動物や人間の衣服について運ばれるもの、自分自身ではじけるものなどいろいろタネの散り方がありますが、それぞれ運ばれるために巧みなしくみを備えています。

また、若い実のうちは運ばれず、熟すと運ばれるという実にうまい工夫もあります。

◆風にとばされるもの

①つばさがついているもの（カエデ、マツ、翼がついていてそれが風を受け遠くへ飛ぶ）

②はねがついているもの（サワグルミ、はねのような形の葉がついていてそれが風を受ける）

③落下傘がついているもの（タンポポ、ススキなど）

④小さくて軽いもの（ラン科、シダなどの種や胞子は風に飛ばされます）

◆動物や人間の衣服について運ばれるもの

①先が針のようにとがっているもの（アメリカセンダングサ）

②先がかぎ状に曲がっているもの（キンミズヒキ、ダイコンソウ）

③細かい毛があるもの（ヌスピトハギ）

④ねん液のあるもの（ノブキ、ヤブタバコ）

◆動物に食べられんとともに散るもの

①小鳥（ミズキ、ガマズミなど美しい色に熟す小形の実が多い）

②動物（ブドウなど比較的大形で甘味のある実が多い）

◆水に運ばれるもの

①ヤナギなど、川岸に生える植物の種は川の流れによって運ばれます。

◆自分自身ではじける

①果実の皮が縮み、その力がタネを押しだす（スミレ）

②果実の皮が内側に巻き上げられたときに飛ばされるもの（ツリフネソウ）

◆重力によるもの

①自分自身の重みで落ちる（オニグルミ、ドングリの仲間）

タネが運ばれて、長い時間休眠したり、着地したとたん発芽するものなど、子孫を残すために植物は様々な知恵を働かせていることも忘れてはならないことです。

10月の観察会は？

樹木の葉が赤や黄に色付いています。すでに落葉が始まっている木もあります。冬の前の一時の自然を楽しみましょう。野鳥も観察しやすくなっています。

・秋の森の観察会 10月19日（日） 10:00~14:30 大沢口ふれあい交流館前集合
(昼食を持参してください)